

舞 とうん

VOL 24



柳原あや子さん(松山市)作・面河溪谷

● われら健康地域 ●

- ◆総合的な健康づくりの追求
松前町／黒田美勢子…………… 2
- ◆みんなの笑顔をみたいから
菊間町／渡部 浩忠…………… 4
- ◆住民の健康を願って
大三島町／菅 マリハ…………… 6
- ◆地域に根づく健康づくり
明浜町／安食 研治…………… 8
- ◆二つの「ふれあいの会」
宇和島／善生 紀子…………… 10

研 修 レ ポ

- ・子午線ハイク in 網野…………… 12
- ・第9回逆手塾…………… 14

REPORT

- ・久万町のC I 活動／宇都宮栄一…………… 16
- ・地域づくり座談会／上浦町にて…………… 18

ふ れ あ い 広 場

- ・リレーでちょっとーク
松山・伊予三島から…………… 22
- ・元気印レポート…………… 24
〈花と生きる〉
〈大洲ハゲタカクラブ〉

Information …………… 28

- ・「わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」
河辺村
- ・TOWNたうん通信
- ・再訪の地
- ・ビデオ・ライブラリー

総合的な健康づくりの追求

松前町

黒田 美勢子



黒田美勢子さん

★はじめに

「働くだけが人生か」、「人は人が好きである」テレビのコマーシャルも仲々ユニークなことを言う時代となった。

最近、スーパーレディの異名をもらった四十八才の落第ママは、この良き時代を迎えたことを喜び、大いに活用させてもらっているのですが。（あらー、失礼をいたしました。ママではなかったわ。実は、二才の孫娘と一日おきに電話でやりとりしているメロメロバーチャンでした。）

冒頭にもあるように、世は正に余暇時代へと突入しました。高度経済成長時代の学歴時代に対比する楽歴時代（生活のすべては楽しむ為にある）を参考までに紹介します。

- 一、楽しめるうちに楽しめんと年取ってからではダメ。
- 二、自ら楽しんだことのない人生に、自ら創造することはいできない。
- 三、周りの人がうらやむほどのライフスタイルを身につけよう。
- 四、素晴らしい人生を歩んでいるモデルになろう。

この四つは、レクリエーション指導者として、余暇時代の生き方を説明しながら実践している分野であります。

一方、スポーツ指導者としての分野では、「健康は与えられるものでなくて、自分がつくり出していくもの」を揚げ、スポーツを如何に楽しむか、どのようにスポーツを通して仲間や地域とのふれあいを深めていくか、如何に健康な生活を継続していくのか等をテーマに、歩んだ足跡をひもときながら、「生涯スポーツ」への提言と総合的な健康づくりの追求をしたと考えています。



★スポーツの効果

一、糖の代謝が改善され、血液中の糖分が下がることによる糖尿病の予防。

二、脂肪代謝が改善され、血液中のコレステロールとか、中性脂肪などの減少による動脈硬化の予防。

三、心臓や肺の働きが高まり、体の隅々まで血液が行きわたるようになり、全身的に新陳代謝が促進される。

四、諸器官の機能が活発になり、全身的な持久力が高まる。

五、筋力が高まる。

このように、スポーツには身体的に驚くほどの効果がある。六十代になっても、トレーニング次第では筋肉をつけることも可能だと言えることです。

ただし女性の場合は、早めに老化が始まるので、とにかく若いうちに筋力アップをする必要有りとのこと。その他、精神的な面では、

スカットとさわやかストレス解消。
スポーツのあとは、仲間とおいしい物を食べたり、家族同志の交流にも発展していくなど、その輪は拡大していく。また、地域行事や大会などになると、スポーツ経験者は積極的に参加協力し、しかもリーダーシップを発揮しながら、地域の人達も巻きこんで地域おこし、町づくりの中心的存在になっていること等、健康的な明るさのなせる所以ではないでしょうか。

★ 十一年目の幸せ

- 。昭和四十三年、婦人会バレーとの出会い（久万町で）
- 。昭和四十七年、夫の転勤で松前町に帰り、ひまわりクラブ結成
- 。昭和四十九年、日本バレーボール協会B級に3名合格
- 。昭和五十四年、日本体育協会公認スポーツ指導員
- 。昭和五十六年、県家婦連盟にレクリエーション委員会増設、レクバレーの普及始まる（レク委員長）
- 。平成元年、愛媛県レクバレー協

議会設立（副会長）

。平成三年、日本レク協会公認一級指導者に合格

誌面の都合で、フルスピードで歩んだ足跡をたどって来たのですが、「いつでも、どこでも、だれでも」がやれるレクバレーは、大ヒットしました。

第十一回大会は、今年の七月七日、三百チーム以上もの参加があり、東・中・南予で同日に開催しましたが、盛会裡に終了したので「私達の組織は、私達の手で」を合言葉にして、まず審判員から育てるなど、着実に役員もふやして居ります。

このレクバレー普及の段階で、高齢者への課題が残っていたのですが、四年前から実行している「ワンバウンドバレー」が好評で、「生涯スポーツ」として定着してきました。「だれもが生涯を通じて、また生涯のあらゆる段階でスポーツを楽しむ」ことができる上、汗をかきながら、プレーを楽しみ、仲間との交流やふれあいのある新しいスポーツである「ワンバウン

ドバレーボール」をお勧めしたいと思います。

★ おわりに

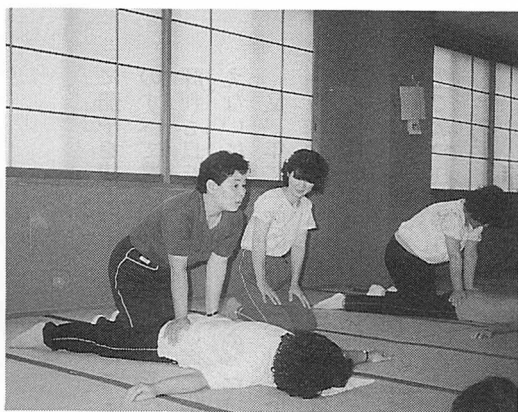
ワンバウンドバレーに皆勤の人から「とにかく楽しい、冬でも汗をかけるほど動けるし体調もよくなった。」「正月も休みたくない。」「週二回にしてほしい。」と色々要望がありますが、施設の九割はレクバレーでつづけているので、近い将来出来る予定の総合運動公園に期待しています。当町では、東レの関係で昔からスポーツ熱も盛んで、優秀なチームも多いのです。

今年、愛媛県を代表して全国大会に出場のママさんバレーチームもあり、盛り上がりつつあります。ニュースポーツも盛んに行われているが、施設面が伴いません。

東奔西走していると、広い三面コートと、スポーツ指導者も配置された素晴らしい体育館とプールも併設の運動公園に出合います。我が町もきっとこのようになるに違いないと思います。ワンバウンドバレーの県大会は、是非、松前

町で開催したいものです。

実に欲張りの私は、レクバレーの技術や審判指導の他に、インディアカや社交ダンス、しあわせ体操（指圧）等も指導していますが、これからの課題は、スポーツやレクリエーションを楽しむ人達を増やし、みんなの健康を高めていくことと考えています。今、問題視されている医療保険の赤字解消も図れるなどの「総合的な健康づくりの追求」を続けながら、年を重ねても、スポーツの欲求に応じられる、スポーツの出来る、そんなひまわりの町にしていきたいものです。



しあわせ体操（指圧）

みんなの笑顔をみたいから

菊間町農協 渡部 浩忠



渡部浩忠さん

★みんなを元気にしてやろう

「元氣・勇氣・やる氣・根氣」

が私のモットーである。特に元氣のみが私の取り柄でもある。

こんな私が「健康」と言うことを真剣に考えだしたのは六年前からである。菊間町農協に勤務する私は、その時、総務部組合員係に異動して、イベント企画、広報活動、婦人部活動、相談活動などの仕事に就いた。私は、この色々な事業活動を進めて行く上で、私のテーマを持った。そのテーマとは、「私の元気で、組合員や地域の人々を元気づけて、元気で笑

いの絶えない町にしてやろう」であった。「みんなの笑顔」これはすなわち「みんなが健康である」ということだから…。

★大分県大山町に学ぶ

私が、「みんなの笑顔」をテーマにするのにも一つの動機があった。

それは、大分県の大山町で学んだことである。この町は、誰もが一度は耳にしたことがあると思う。「梅栗植えてハワイへ行こう」で有名なあの大山町である。私は、大山町を訪ねてビックリした。住民が、常に「挑戦」という二文字を頭に置き、実際に物事にチャレンジしているのである。私の住む菊間町より人口も少なく、山に囲まれたごく普通の農村地帯の大山町が、なぜこんなにも活力があるのか、と不思議に思った。確かに、

立派なリーダーに寄るところ大かもしれない。しかし、私はこの町に行った時の印象が忘れられなかった。出会う人誰もが明るく、自信に満ちあふれた表情をしていた。私はその時、この町の活力の根元は「これだ、このいい笑顔なんだ」と思った。それと同時に「大山町には負けれんぞ」そんな気持ちにもさせられていた。

★心と身体健康

そこで、まず私が取り組んだのがイベント活動である。イベント

による地域の活性化を狙ったのである。

「組合員ふれあい大運動会」と銘打って運動会を実施した。一般にある運動会とはかなり違って、ポールの代りに夏みかんリレーのバトン



に茄子を使うなど、競技に使うものすべて農産物、農器具で行った。評判も良く、とにかく笑い声の絶えないにぎやかな大会であった。又、年に一度の農業まつりでは、「百八十メートル巻寿司」や直径三メートルの「七百五十人前ジャンボお好み焼」を焼くなどの話題性でまつりを盛り上げている。

(上) 750人前ジャンボお好み焼

(下) 180mの巻寿司

こんな食べ切れるでしょうか...



「おいでやフェスティバル」

色々なイベントを通じ、参加者からは「楽しかった」「おもしろかった」の声に混じって「来年はこうしてみたら」とか「次にはこんなのを企画してみてもいい」などの積極的な意見が出るようになってきた。

そんな声を反映してスタートしたイベントに「おいでやフェスティバル」がある。これは婦人と子供の集いとして、毎年夏休みに開いている。運動会やレクリエーションゲームなどの遊び部分だけでなく、食品添加物実験なども親子で

行い、非常に健康的なイベントとなっている。

ここ数年、色々なイベントを企画してみて、「イベントは、心の健康と身体の健康、両方が備わってないと成功しない」と、つくづく思った。

★農業加工場オープン

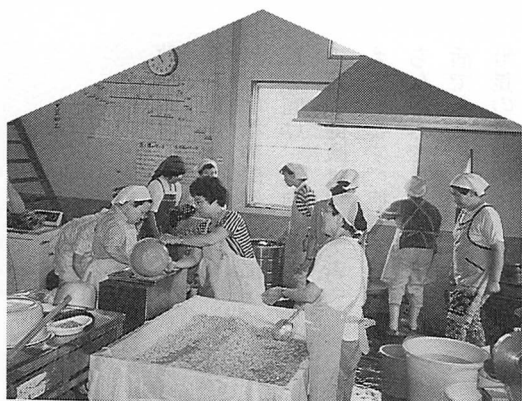
健康を考えて行く上で最も大切なことは、規則正しい食生活である。現在、生協や農協で取り組まれている共同購入活動に代表されるように、全国各地で新鮮で安全な食品が追いつめられるようになってきた。

この安全な食品ブームの先陣をきって、昭和六十一年九月、菊間町農協に「農産加工場」がオープンした。農協婦人部員の長年の夢でもあったこの加工場は、加工食品の販売が目的ではなく、加工グループ員相互の自給が目的である。町内産の米、麦、大豆を原料として造った味噌。天然のにがりを使用して造る豆腐。それにみかんのビン詰め、竹の子のビン詰め、山菜のビン詰め……etc. どれも

これも原料はすべて地元で取れたものばかり。地域の農業や風土に密着した加工場となっている。

今までは、あまり一般販売されていなかったが、今後は少し規模を拡大し、一般へも販売する予定である。

ある本にこんなことが書いてあった。「人間は子供の時に味わったお袋の味を一生忘れない」今、この加工場を毎日のように使って、お袋の味を加工グループ員が造っている。「風土に合った食生活で健康を……」これが加工グループ員の合言葉にもなっている。



農産加工場

★今、新たな感動を求めて
 昨今、全国各地で村おこし、町おこしイベントが氾濫している。農協においても、営農活動だけでなく生活活動の充実を図る上で地域イベントが数多く聞かれるようになってきた。

そんな中で、私が企画したイベント、事業活動を振り返ってみて思うのだが、反省すべき点も確かに多くあった。しかし、参加した人々の声として、ただ「楽しかった、おもしろかった」というだけでなく、地域の人たち同士の結び付き、心のふれあい、「次も自分達で参加をして何かをやってやろう」という気持ちが生まれてきた事が、各種のイベント、事業活動を通じて何よりの収穫であったような気がする……。

今、新たな感動を求めてイベントを企画中である。一時期のテーマであったはずの「みんなの笑顔を見ること」が、私にとって永遠のテーマになってしまったようだ。

住民の健康を願って

大三島町役場

菅 マリハ

大三島町は瀬戸内海の中心部にあり、広島県に近い自然に恵まれた、大山祇神社の国宝とオレンジの島です。

この自然に恵まれた環境の中にも、人口の高齢化が着実に進んでいます。私が保健婦として島に帰り、早くも二十数年が過ぎました。学生時代に、「病気になるような対策はないか、住民に健康の知識が少しあれば元気に農業ができるのではないか」と考えつゝ、地域に帰りました。そのうちに病気の予防策と住民の役に立つ保健婦としての思いなどを、強く胸に抱くようになりました。

そして、大三島町に多い病気とか、家族共々苦労している病気は何かを調査し、まず手始めに母子の健康管理を出発点として取り組



菅マリハさん

みました。次に成人病（高血圧、脳血管障害、心臓病）予防活動のために、健康相談、健康教育、検診の推進を行いました。住民がひとりでも多く積極的に参加できることを望み、地域ぐるみで展開し、継続し、住民の関心が高まっています。受診により思わぬ病気が発見され、早く手当てできて、本人と家族の喜びの声を聞く時は、日頃の疲れも吹っ飛び、良かったと胸をなでおろす一時であります。

住民の方とのふれ合いにより、数多くのことを教えて頂きながら保健婦業務も拡大しております。最近では精神保健活動に

目を向け、精神障害者の方の健康について考えています。病気を持ちながらも地域で生活できることを願い、町長のご理解により精神障害者小規模作業所を設置して頂くことができました。多くの方の協力を得ながら、十五〜十六名の方が毎日通所し、作業、創作活動等を行っています。友達作りができ、明るく生活できていることを非常に悦ばしく思っています。

今後は障害を持ちながらも、地域の行事に積極的に参加できる方向に進めていきたいと思っています。



(前列、中央が菅さん)

今後、高齢化が進む中で、健康はより重要な課題となります。

とりわけ住民一人ひとりが、今持っている病気と仲よく、病気を悪化させないで、しかも寝たきりにならない事が重要なポイントとなります。

この「寝たきり」防止対策はある年齢で始めるのではなく、若い時から毎日考えていかなければならないことです。「セルフケア」と言う言葉がありますが、「自分の健康は自分で守る」、この事をまず住民の方に心に止めてもらって、日常生活に取り入れて行く事が大事であると思います。

それには住民を大切にした取組みと活動がなくてはなりません。又、現在不幸にして障害を持つ

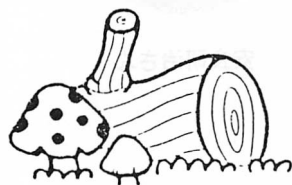


ている方に対しては、残された健康な機能を強化する訓練を行っています。そのためにはグループ活動（同じ病気の仲間が居ることを知り、お互いに助け合う）を通じて、自分のことは自分自身で行い、寝たきりにならない事、そして、寝たきりにしない方法を考えて行かなければなりません。最近リハビリ教室を開設し、月に一〜二回の機能回復訓練とコミュニケーション活動を実施しています。この活動を通してお互いの元気な笑顔と声かけで、参加者の表情が日ごとに豊かになり、動かなかった手足を動かして見せて下さる様になります。その時の素晴らしい笑顔に、つい私達も百点満点の顔になります。

本当に少しずつ良い方向に進み、喜ばれる様子を見れることは私にとって最高の喜びです。

今後、大三島町にも保健福祉センターが設置されます。その中で全ての保健、福祉の対応を行なう予定です。益々忙しくなると思いますが、一人でも多くの方がいろいろの事業に参加され、寝たきりで家に閉じ籠る人もなく、たとえ障害があっても笑顔であいさつのできる、明るい健康な町づくりを願っている私です。

これからも、住民一人ひとりの知恵をお借りしながら、頑張って行きたいと思っています。



地域に根づく健康づくり

明浜町高山診療所長

あじき
安食 研治

▼地域にとけあつて

明浜町は東宇和郡の西南、背後は山脈が分水嶺をなし、東西十四・一kmの海岸線は宇和海の中心に位置し、美しい景観を造っています。海と緑と太陽に恵まれた人情豊かなこの町も、人口五千五百余人のうち老人が二十六%を占めるといふ典型的な過疎の町となっています。

私は当地に赴任致しまして五年目になります。以前は町立野村病院に小児科医として勤務しておりました。「舞たうん」二十二号に投稿された土居真砂人さんとは山崎町長の御指導のもと、早朝テニスを楽しんで仲であります。二十く三十人の小児を診療していた生活から、百人以上の患者（多くは

老人）を一人で診療し、尚且、健康管理センター所長を兼任するという状況の変化に当初は戸惑う事もありましたが、現在は一町民として明浜町の海水にどっぷりと浸っております。

▼健康管理センターとは

さて、明浜町健康管理センターは町民の高齢化と疾病構造の変化による医療費の増加と国保赤字に対処すべく、昭和六十年代に国保高山診療所と併設して設置されました。事業内容の骨子は、

- | | |
|-----|---------|
| (1) | 保健対策事業 |
| (2) | 検診事業 |
| (3) | 母子保健事業 |
| (4) | 伝染病予防事業 |
| (5) | 環境衛生事業 |
| (6) | 献血推進事業 |

に大別されます。個々の内容は省略しまして、(1)のうち健康づくり地域組織活動について述べます。

▼住民との信頼関係

昨年六月、明浜町総合保健対策協議会において町内各地区の疾病状況、或いは医療費に関する資料に目を通していただきました所、当町では十年余り前から熱心に成人病検診を実施しているにもかかわらず、老人医療費は高騰する一方、特にM地区の高血圧性疾患に関する医療費は群を抜いている事に気づき、早急に対策を講じる必要があると提案いたしました。

各地区に積極的に乗りこんでい



安食研治さん

き、住民と膝をつき合わせながら信頼関係を深めつつ設定した目標に一步一步近づこうという事です。

しかし、大風呂敷を広げたのはよかったのですが、我が身を振り返りますと、大食漢、大酒家の上に運動不足が重なり、あれよあれよという間に八十五kgにまで太っていたのです。九月下旬より健康づくり活動を実施しなければならぬ手前、血のにじむような努力で三カ月で二十kg減量しました。今でも、たまに来院される患者さんは、「今度の先生はスマートな人やね。」と、やせる前と後の私を別人かと思っているようです。



健康教室……の様子です

▼健康教室オープン

話が脱線しましたが、M地区の活動につき若干触れてみましょう。月二回程、夜間公民館にて高血圧、動脈硬化、糖尿病、高脂血症等の健康教室を開催しております。M地区に多くみられるパターンは、中年女性で肥満、高血圧、高脂血症、或いは耐糖能障害を合併するタイプで、食事や運動療法に関する知識が足りないか、あっても実



行できずにいる方が多かったようです。そこで、食品交換表を使って食事のカロリーや栄養のバランスを勉強してもらいました。又、万歩計を身につけ一日一万歩を目標に頑張ってもらいました。この活動に参加された三十名の方の血中コレステロール及び中性脂肪濃度を活動前後で比較してみますと二十〜三十%の改善がみられました。

▼一年間を振り返って

この一年間の活動を振り返りますと、

- (1) 健康づくり活動に積極的に参加する方は、住民の一部に偏ってしまいう傾向にある。
- (2) 個人個人のバックグラウンドに対する配慮が足りず、画一的な方法に終止していた嫌がある。
- (3) 医学的知識や一般療法のノウハウを住民に直接語りかけ、理解してもらうことの難かしさを痛感した。
- (4) 一方、住民の健康に関する興味や知識が深まるとともに、住民と医療サイドの信頼関係が深まり、国保診療所の利用頻度が増した。

又、一部の方は薬物に頼らず一般療法にて基礎疾患が改善した。などが挙げられます。

▼予防の重要性

最後に申し上げたい事は、健康を一方的に他人に管理される事は淋しいことです。予防医学の意義を皆様に再認識して頂くことを希望すると共に、私も各方面で地域保健医療を展開し、住民の方々の負担に応えられたいと思います。



二つの「ふれあいの会」

宇和島ふれあいの会 ぜんしやう
善生 紀子

二人の子ども、長男、長女が成人し、各々の仕事の都合上、三カ所に別れて生活が始まったのが三年前でした。私の両親はすでに亡く、七十九才と七十三才になる夫の両親は持病を気遣いながらも孫である長女を同居させ、岡山で暮らしております。たまに帰省した折、聞く話の一つに、「近所の人や知人がかけてくれるやさしい言葉や、親切な行爲が、とても嬉しく有り難い」というのがあります。遠くに住む身の切なさを感じる一瞬です。



では、私はどうすればよいのでしょうか。あるのは、少しの自由に使える時間だけです。

■私が見つけた
生きがい

その頃住んでいた福岡県久留米市で、公民館祭が開かれ見に行きました。たくさんさんの展示物の中、一冊の布の絵本に目がとまりました。スナップやマジックテープで止めたアップリケの下に、それにちなんだ色のものが隠れています。ページをめくるたび、自然に顔がほころびます。この本を見た人は誰でもそうでしょう。出来るかしら、作ってみたいなと思ひ、作者をみると、製作「ふれあい」とありました。早速問い合せてみると、絵本や遊具を作って、施設、学校、

在宅児童へ貸し出しをする会で、一度見学させていたゞくことにしました。七、八名の人が楽しそうに作っていました。そして驚いたことに、みなさんが六十五才以上だったのです。まもなく八十才を迎える人もいます。若い時から、針仕事はお手のものだったのでしょうか。老眼鏡の奥にやさしさをにじませた目がきらきら輝き、指先はせっせと動いています。私の針の一運びが役に立つなら仲間に入れていただき、総合福祉センターの一室に週一回通うことになりました。

年齢、家族構成などさまざまですが、共通しているのは、戦中戦後の苦しい時代を乗りこえた体験をお持ちということ。それが自信となり、ゆとりをもち、さらに体力、気力、意欲のあることが、老人大学で学んだことの実践につながって、一人で幾つものグループに属してボランティア活動をしており、忙しいけれど生きがいの一つになっていると嬉しい悲鳴をあげておられるのです。



ふれあいの会のみなさん(右から3人目が善生さん)

私もこのように年を重ねたいと願うようになり、出来る範囲で色々参加させてもらいました。心が少しづつ満たされ、安らぐのを感じました。

■多くのひとの
ふれあいをバネに

その矢先、宇和島への引越でした。別れはとても残念でした。もうお会いする機会はないでしょう。けれど決して忘れません。この胸のほのぼのとした思いは…。

折角、灯したこの小さな明かり

を消したくなくて、訪ねまわり、まず婦人会に入れてもらいました。行事に参加していくうち、知りあいも増え、生活の幅がぐんと広がりました。

次に、宇和島の「ふれあいの会」を知りました。はからずも同じ名前で活動内容は違っても親しみが持てました。民生委員をしている会長の紹介で二人の方を訪問したり、されたりしています。

ご主人を亡くされ、子供のいない八十六才のDさん。明るい方で甥、姪が大切にしてくれると笑顔で話されます。体が弱く結婚されずにずっと一人でいるKさん（男性）。お姉さんが、時々お世話にくるそうです。健康のこと、生活のことで不安や悩みはつきないようですが、あるがままを受けとめて、人に迷惑をかけないよう心がけて暮らしておいでです。今まで、同年令や若い人とのつきあいが多く、人生の先輩といえ、祖父母、親、おじ、おばなどで、近すぎる関係に素直になれない時もありました。老若男女、多くの人間関係

を通じて、新しい知識や情報を得たり、自分とは違う考え方、生き方に接して受ける刺激を、活性剤にして、「健康な体」「活発な頭」「柔軟な心」を目標に生きて行きたいと願っています。

心と心の交流

最後に民間ボランティアふれあいの会を紹介します。

・会を作った目的

「老人問題は自分の問題。手を取り合って私達に出来るボランティアをしよう。」と、ひとりの会員の呼びかけに応えた人達によって生まれました。会員の中には、家族に寝たきりのお年寄りや、痴呆性老人を抱えた悩みをもつ人達が多く、その経験から行政の政策の充実だけでは満たされないもの、喜びや苦しみの共感期待できないことを知りました。

心と心の交流を深めるボランティアを目的として「ふれあいの会」は作られました。

活 動 内 容

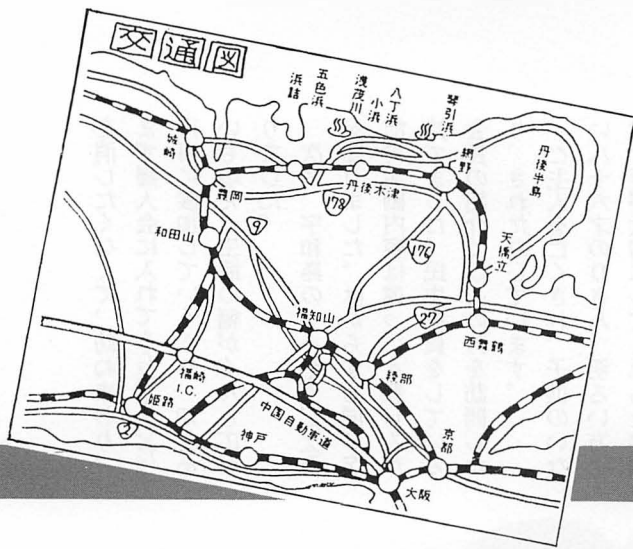
毎月第三水曜日に開かれる勉強会と、家族を長期介護している方やお年寄の方たちを対象にした友愛訪問を活動の柱にしています。

仲間を募集しています

★ 問い合わせ先 ★

会長 梶原蘭子 TEL(0895)23-0879
宇和島市福祉課老人福祉係
TEL(0895)24-1111
内線289





子午線ハイク in 網野

(財)愛媛県まちづくり総合センター

上ノ田 誠一

研修レポート

● 研修ハイクにあたって

時は四月。県外研修で、奈良県川上村と奈良まちづくりセンター、京都府―網野町をセンター職員(山岡・安田)の三名で訪れた。

研修レポは、数多くのユニークなイベントで、知る人ぞ知る網野町にスポットを当てた。

何を隠そう、ここ網野町は、東経百三十五度の子午線最北の地に位置し、ちょうど日本列島の中心地点にあたる。

そして、子午線最北の塔は、標準時刻を刻むだけでなく、網野の歴史・文化を刻んでいる様にも思えてならない。思えば、私は、三十数年間、時を大切に使うて来ただろうか？時は、自分自身の活用如何で有効にも無効にも……。

子午線の町を訪れた契機に、「センターでの二年の時を有効かつ最大限活用しよう!」と、時間を無駄に費やすことの多い私に、網野の町がそう悟してくれたように思われた。

● 子午線からの発想

今、全国各地でそれぞれの地域の特性や歴史・文化を生かした町づくりを行う為に、一つの手段としてユニークなイベントを実施しているが、ここ網野も特色のあるイベントを行っている。

京都府の地場産業振興センター(アミティ丹後)が六十一年三月に完成すると、網野と振興センターを知ってもらおうと発案実行した。「端午の節句に丹後でタンゴの音楽会」――結果は大成で、新聞各紙、NHKテレビ等に取り上げられ、実行委員会のメンバーも自信をつけたと聞きする。

今なお、この音楽会は継続され、幅広く地域の人達に支持されているようである。

また、時の記念日(六月十日)の「子午線まつり」や日本標準時制定一〇〇周年を記念して、「子午線ガムシヤラハイク南下隊」を組織し、十数日かけて網野から明石市まで子午線上百三十キロメートルを地場産業である絹糸を引

てまっすぐ南下、子午線にあくまで忠実に五市十一町を訪問した一行は、各地で熱狂的な歓迎を受けたそうである。

このハイクが発端となり、子午線上の市、町が深い絆で結ばれ、各地区の友好の輪「東経一三五度線上市町村交流協議会」が発足し、子午線交流が展開されている。



● 子午線は限りなく

子午線上の市、町の文化交流を図るため、短歌・俳句・川柳を募集し、町中心部の街路二キロメートル両側の銀杏並木を「子午線歌の散歩道」として、杉板で作成した短冊を掲げたりと子午線交流は限らない。

子午線は、日本海を経てソ連のサハロフ市へと続く。現在サハロフの子供達と網野北小学校児童の手紙や絵の交流を展開中、その内、子午線の国際交流は、地域へ根づいてくることだろう。

サハロフの子供達の絵を見て、

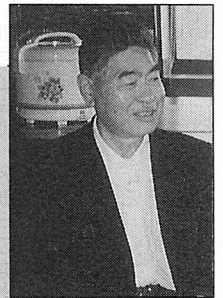
私自身少々子供じみているかも知れないが、感激するものがあつた。網野町の子供達は、もっと感動を覚えたに違いない。感動を体験した子供達の手によって、子午線交流のドラマは、地球サイズで動き出すであろうと確信する。

● 線をつなぐ人

どの町にも、地域づくりやイベントの仕掛人がいるものだが、ここ網野の「ザ・マン」は、山崎欣一さん五十九歳。

現在、牧場経営・養殖業・建築業等幾つかの事業に携わる実業家である。山崎さんは、物静かで多くを語らないが、実業家らしくユニークな発想と行動力で、多くの人望を集めている。本人は余り表に出ずに、行政・マスコミ・関係機関等へのパイプ役的存在と判断する。

仕掛人であるが脇役である。これが人望を集める所以かもしれない。事実、山崎さんが仕掛けたイベント等を通して知り合った数人の若者が網野に定住し、紙漉・草



山崎さん

木染・無農薬農業を行っている。

また、山崎さんは、手づくりの町づくり運動を続けるグループ「網野ふるさと塾」の代表でもある。

✦ 人と人とのネット ✦

● 網野ふるさと塾

塾の活動歴は古くて、昭和四十七年の開設。

当時は、基幹産業である織物業も活況を呈し、大人は早朝から夜半まで機織りに追われ、子供達は置き去りにされがちであり、大人は、自然文化を育み育てる余裕もなかった。大人子供共に、心の荒廃が進むのではないかと憂慮し、地域の人々に心の豊かさを取り戻そうと山崎さんの呼びかけにより開設された。

塾は毎月定期に行われ、会則も会費もなく自由で開放的な組織。

出席した人が塾生で、形式にこだわらず、楽しみながら本音を語り合い「続ける・重ねる・つなげる運動」を基本とし、住民の交流や全国の地域づくり人との交流活動等が煮詰められている。しかし、塾活動を続けている一番大切なコンセプトは、やはり網野を住みやすい町にすることである。

これは、放漫経営により、設立後数年して閉鎖されようとした大型病院を、網野の住民にとって健康管理の施設は是非残さねばと、塾生が中心となり、そうした経営の危機を脱したことだろう。

● ハイイクのゴール

今、イベントをすることが、町づくりの柱であったり目的となっている所が少なくない。山崎さんは、「イベントは、あくまで手段、目的じゃない。」とおっしゃる。おもしろイベントを通して網野を知ってもらおう。そうして町とおしんどおしが交流できたらと願っている。網野は、ふるさと塾のメンバーを中心に、「自分達がどうすれば

快適で楽しく暮らすことができるか」を考えながら、着実に一歩一歩前進している。

そこに住むお互いの知恵と時間と労力を持ち寄っての手作りイベント活動のなかで、必ず人が育ってくる。「町づくりは人づくり」とよく言われるが、私はまず自身が生きているまちに深い関心を持ち、愛情を、そして行動を起こさなければ、人を「まちづくり」の活動に巻き込んだり、人に行動を起こさせたり出来ないと思う。つまり、「まちづくりは自分づくり」である。

網野は、自分づくりの出来ている人の多い町でもある。このセンターでの二年間は、自分づくりに挑戦する研修ハイイクでもある。



ここは東経135度、子午線最北の塔がある町



『第9回逆手塾』 レポート

財愛媛県まちづくり総合センター

松森 陽太郎

研修レポート

今年も、「過疎を逆手にとる会」の第9回目となる『逆手塾』が、去る六月八・九の両日、広島県甲奴郡総領町で開催された。

今回は、初参加者の目から見た『逆手塾』を、主観を交えながらレポートにまとめてみた。

会場は、廃校の小学校を改装した『ふるさとセンター田総』。開会前、会場の彼方此方では、既に元氣そうな人物数十名がにこやかにあいさつを交わしている。話し掛けると、やはり皆元氣ですこぶる愛想も良い。参加者は二百名。北は北海道から南は宮崎県まで、行政・商工会・民間の実践者など、実にバラエティー豊かである。

これが、『逆手塾』の魅力だろう。

・ ・ ・ ・ ・

●まず、初日の模様から

受付では、会費の徴収とともに、参加者全員に「名刺」の提出を呼び掛ける段ボール箱が用意されている。逆手塾名物の《名刺コンテスト》のためである。一人でも多くの人とのネットワークづくりに

は、やはり今日の日本社会では、「名刺」も「酒」とともに不可欠ということか。

・ ・ ・ ・ ・

●開塾

今回のテーマは『創る』。過疎逆会長の安藤さん、地元総領町の瀬村町長さんのあいさつに続き、まず、三名のまちづくり実践者による『輝爆剤―奮戦記』と題してのリレー講演。各講師の話には、翌日の分科会への集客?のこともあってか、俄然熱が入る。設備は、お世辞にも立派とは言えないが、奮戦記に聞き入る参加者の表情は皆真剣そのもの。

岐阜県蛭川村^{ひるがわ}で石材店経営の傍ら、「石」をテーマとした私設展示館『博石館』をオープンさせ、年間十六万人の入館者を迎えるまでになったという、博石館館長の岩本哲臣さん。岩本さんの話は、兎に角、迫力がある。氏の半生を語るには、とても一時間では不十分。機会があれば、もう一度じっくりとお話を伺いたいと思わせる

人物である。

人口七百五十八人の高知県大川村からは、あの『爆発芸術家』岡本太郎氏の下で働いたこともあるという川村純史さんが、木の持つ丸みを活かした木工製品の製造販売でむらおこしに取り組んでいる活動を披露。「木星会」なる会社の製品は、常に在庫不足の状態、なかなか望みどおりの商品を提供できないと嘆いておられた。川村さんは、過激的?語り口の岩本さんとは好対照ながら、聞く者を引き付ける何ともいえない魅力を持った不思議な人物である。いずれにしても、過疎の村大川村の『むらおこし起爆人』であることに間違いない。川村さんのデザインと、木板を使ったパンフレットなど、センス抜群のアイデアが実にうまくマッチしているとの印象。

三人目は、福井県池田町から、『そばづくり名人』の谷端淳一郎さん。二十四歳でUターン、そばづくりに一念発起、町内唯一のそば屋のおやじに「町内では店を出さない」との約束で弟子入り。今

もちろんとおやじとの約束は守っているが、『そば』への思い入れは相当なもので、将来は、四季の異なるオーストラリアにそば農場を作りたいとの夢を語る。男のロマンと自信に溢れた切り口を見せる。

内容は三人三様ながら、それぞれに、『まちづくり』に共通の重要な本質を教えて貰った。久しぶりの感動である。

《バイタリティー》《アイデア》《ロマン》

・ ・ ・ ・ ・

講演の後は、奥田祐子さん率いる「ザ・わたしたち」のふるさとの歌コンサート。参加者と一体となったのコンサートは、迫力満点。そして、初日のフィナーレ『人源パーティー』（会食）へ。次々と道府県別に壇上に上がり、大声でお国自慢を兼ねての自己紹介を繰り返すが、その一方では賑やかな交流会が続く。

その後は、簡易宿泊所のベッドで車座になり情報交換をする者、仮設の居酒屋に飲みに行く者と様

々、閑静な総領の閑夜に、賑やかな歓声がこだまする。

・ ・ ・ ・ ・

翌二日目は、『手仕事入門』『博物館を創る』『要覧を創る』『手打ちそば入門』『ふるさとの歌を創る』の五つに別れての分科会。

・ ・ ・ ・ ・

『博物館を創る』では、コメントーターに安藤会長が座り、前日にも増しての岩本さんの熱弁を聞く。蛭川村四十七軒の石材店の一つに過ぎなかった（株）岩本は、博石館建設を契機に大躍進、全国で二十番目の業績を挙げるまでになったという。「思い付いたら、まず実行」と言うとおり、バイタリティーが服を着ているような岩本さんの人生は、ある意味で羨ましい。人生を変え、人生を育んでくれるような人物との出会い。隣



まちづくり輝爆剤

1. まちづくり仕掛け人。またの名を《輝爆剤》——眠れるまちに爆発を。
2. ひとが輝きまちが輝く——人間が輝爆剤。あなたが輝爆剤。
3. 熱くなれ。熱くなれ。熱くならねば爆発は起きない——理性や常識を越えて熱くなれ。
4. ぶつかれ。ぶつかれ。火花はぶつかって生まれる——上手な生き方を捨て、ぶつかれ。
5. 輝爆剤はいつも少数派——明日を信じて、常なる今くずしを。
6. 輝爆剤なしの爆発はない——小さな営み積み重ねて、いつか大爆発。
7. 夢を持て。夢の隣に友を持て——輝爆剤連合。ウェットブランケット（濡れた毛布）を撥ね飛ばせ。
8. 旅人・異質の意見。それが輝爆剤の栄養素——他所者や異見を大切に。
9. イベントはまちづくり輝爆剤——「祭ですから」を積み重ねて古い世界を打ち破れ。
10. 大胆素敵——チャレンジなくてなにか輝爆剤だ。

たという。

岩本さんの話は聞いていて飽きず、こちらの問いかけにも真剣に楽しそうに答えてくれる。人間的な魅力もさることながら、岩本さんには『人生における出会いの大切さ』を爽やかな感動とともに教えていただいた気がする。

人との出会いは、自ら創ってこそ本物。

市のJC理事長のときに実施した、千人委員会による『松茸一トン、千本集めて十万人』のイベントでは、様々な障害を乗り越えての達成感にメンバー全員が感極まり、泣きながら一時間万歳を繰り返し続けたという話。社員が運営する「よろこびづくり委員会」による会社経営。そして、博石館。一時は、経営の悪化から手放すことも考えたが、是非譲って欲しいとの友人の言葉に翻意し、全国でも有数の黒字経営の博物館にまで育てあげ

自然と共生する高原文化のまち —久万町のC I活動—

久万町役場（客員研究員）

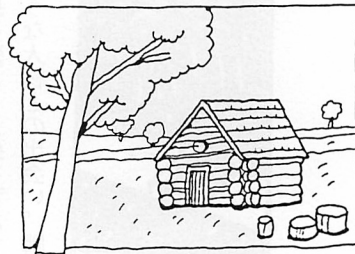
宇都宮 栄一

「C I」という言葉は自治体においても、もう新しい言葉ではなくなってきました。企業のコーポレート・アイデンティティを讀み替えるとする、私の町でなら、山ですらカントリー・アイデンティティでしようか。

町内外の特に関心のある方々から、わが町のことについて、色々とお提言いただいています。

それが、どのような基本的な考え方の上に立ったご意見なのか、理解しづらく、折角のご意見にもかかわらず、対応に苦慮して行動できない場合もあります。

わが町を、私たちの思想や行動などを、ユニークならしめるトータルな実態がなければ、それはただの思いつき、ただのトレンドに流された一部の活動に陥ってしまいかもしれません。

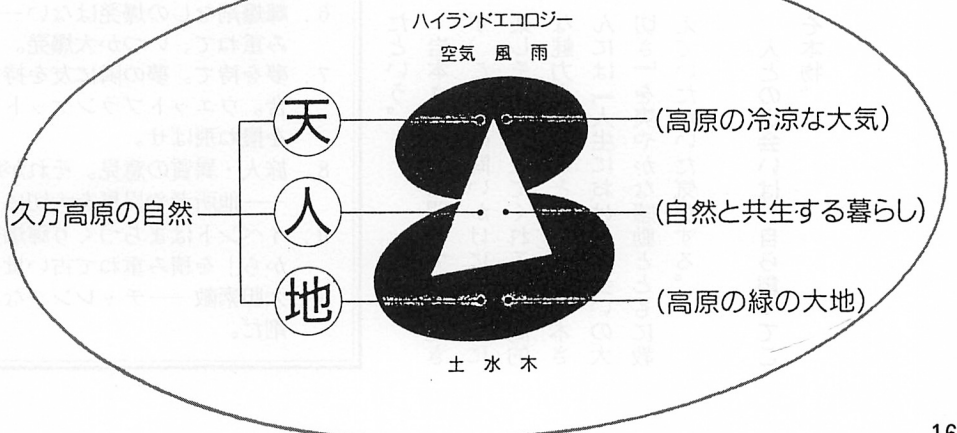
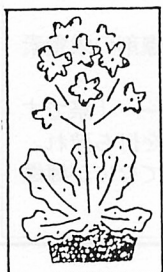


二年前、久万町のC I事業の取り組みを始めました。「C Iとは何だ」という基礎的な研修会を開催したり、アンケート、座談会、フォーラム、コンサルタントによる指導等々、そして報告書というお決まりコースをひと通り回って、何となく久万町流のC Iの共通言語ができつつあります。といってもプロジェクトチームのメンバー数名だけだったのが実態かもしれません。

とりあえず、V I（ビジュアルイメージの統一化）、M I（意識統合）B I（事業実施統合化）のうちV Iの一部だけできました。

マークは下のデザイン、キャッチフレーズは「自然と共生する高原文化のまち」です。

以前のキャッチフレーズは「良材と休養の町」でした。久万町は林業の町として、育林に励み、良質材を産出するためのあらゆる施策を展開して来ましたが、「良材」という素材を示す言葉だけでは、久万町の今後伸びて行く産業を表現することはできなくなってきました。



「休養の町」
久万高原の美しい農村環境づくり

環境のデザイン計画

土 水 木

「良材の町」
久万高原の文化産業づくり

産業のデザイン計画

土 水 木

ハイランドエコロジーデザイン

① 自然と共生し、快適な生活環境づくり

自然・健康・デザイン(景観)

・自然環境
・生活環境

② 自然とともに生きる暮らしづくり
③ 久万高原の特色を生かした交流文化産業づくり

自然・健康・文化(リゾート)

・農業
・林業
・商工・観光
・交流文化産業
(融合産業)

④ 自然と共生する高原文化の人づくり

自然・健康・文化(ふるさと)

- 1 自然とともに生きる暮らしを大切に人づくり。
- 2 健康で明るい生活のできる人づくり
- 3 久万高原のふるさとそして文化を育てる人づくり

いますし、休養という言葉も、「久万高原の美しい農村環境づくり」という視点で広く捉えたいと考え、キャッチフレーズを「自然と共生する高原文化のまち」に変更した次第です。

山村で生きる価値づくりは何といても、自然界を手本として、自然と共生する美しい環境の中で、暮らしをつくっていくことです。産業のテーマは、「自然・健康・文化」。そのテーマにこだわりを持ってモノづくりをしたいものです。

ただ、地域産業の単品による展開では、農村の生産力・技術力・デザイン力はちっぽけなものです。総合的な町自体が、または私たちの暮らしづくりが商品だとしたら、他では作りえないものでしょう。美しい自然生活環境の中で、土地と共に生きる生産活動もあります。おいしい料理だって食べれます。音楽祭・演劇・美術鑑賞・天体観測だって……。そんな久万高原の暮らしが商品力であるということにしていきたいと思うのです。

水車小屋でひいた材料で
“うどん” “そば” “おかし”
等が手づくりできまーす。
—ふるさと旅行村—

“久万町幻想曲”

一度聞いて下さい。



最近、ブームになっていますが、西ドイツの「農家で休暇を」運動「美しい村づくり運動」「クラインガルデン」、スイスの「パライオフィット」などなど。久万町でもやっと「みどりのふるさとづくり基金」が創られ海外研修の制度ができました。農家の人達が楽しい農業ができるそのヨーロッパの生活のあり方に触れ、農業の環

境、生活文化、重視での生産活動を学んでこられ、それが、刺激となって、「そうだよっぱり、自然と共生する高原文化の町よな」と将来言ってくれると「バッチ・グー」といったところでしょうか。

近頃感じることは、「人づくり」だといって、研修とか、視察とかで情報を詰め込み、その情報を持って意欲を高めた人が何人かいたとしても、それは人的資源でも何でもないということです。交わりを持ち、共生する行動に移行した時、はじめてそれは地域の資源となり、そしてそれが具体化し現象となるには時間がかかるということです。抽象的な言葉でしかうまく表現できませんが、「交わり」そして「共生」の中に実体が生まれるものと感じます。

「自然と共生する高原文化のまち」。自然との共生の中で、人と人の共生の中で、また産業と人の共生の中で、生きがいのある久万高原の暮らしづくりを創造していきたいものです。

REPORT

21

世紀にチャレンジする町づくり

〔座談会〕



今回は「上浦町若者塾」でお世話になった三名のアドバイザーと塾生を交えて、地域づくりの阻害要因、人づくりへの提案を中心に「歯に衣着せぬ」個性ある調子で、話し合っ

地域づくり現況と若者は今

守谷 町づくりに携わった人の大半は、一回は壁にぶちあたり、また乗り越えなければならぬわけですが、今日は地域おこしの問題点、人づくりの問題を切り口に探っていきましょう。

若松 地域づくりについては、随分と停滞感があるんじゃないだろうか。どの町も町づくりブームに乗って、火種が起ったというのは、事実であらうし、どの町もよくやっているなと思いますが、やっている人と、やっていない人の隔たりがここに来て、出てきたなと思ったりします。

どうも、町づくりの概念として、自分たち、住民の生活が豊かになる、という基本的な所を忘れてしまっているんじゃないか。

そんなことを考えると、どうも最近は大量の情報の中から、町づくり情報をいち早くキャッチして、それを真似た人が偉いという町づくりがあるんじゃないかな。

守谷 一つの情報でも瞬時に末端まで届くとなると怖い話でね、見た瞬間に情報が生の情報でなくなつて陳腐化しているという、非常にづらい状態です。情報が多すぎるということは、よく言われることです。

それで生活の資質を見直す必要性は、解っているのですが、役に立つ情報がいつもほしいんですね。

今、若松さんが言われたように浮ついたところがあるんじゃないか。本当の自分の生活を見据えてないんじゃないか。という反省点を捕らえまして、この町の実情と困っていること、具体的なことを交えて、鶴岡さんどうぞお願いします。

鶴岡 そうですね、若者の視野に立って、付の時の考え方と相違がものすごくあるんですね。私の青年活動で一番長いのは、商工会の青年部の関係なんです。私が入ったのは、二十一〜二才の時だったのですが、たとえば、商工会青年部のリーダーにしても「俺がやる、俺がやる」と選挙になるほどでした。

今は逆に「俺はイヤ、俺はイヤ」と逃げる。全然変わってきて、気迫に欠けるというか、人任せになってきている。だから、今の若者は、誰かが手取り、足取りして引つ張らねばついて来ないのだろう。ほんととこれではいけないのでしょうけど。しかし、これは時代と共に、全体的な傾向かもしれませんね。

守谷 ひとつにはそういう潮流がありますよね。バリエーションが増えたとか、価値観の多様化とか、社会的な現象がありますよね。

我々の世代は、今の倍、三倍とか仲間がいたんじゃないですか。この島でもピークは今の人口の倍ぐらい居たんでしょう。

鶴岡 確かにありますよね。ある若者と話した中では、「この島へ帰っても、友達がいらない」と言いますね。たとえば役場に入っても両隣にはおじさんばかり……。

過疎化をバネに

守谷 都会から島へ帰る場合、仲間がいるということは大きなポイントになりますね。小学生、幼稚園児が激減している現状からは、人口が増える兆しは、見えてこない。愛媛県に限らず、増えてその弊害が出るのと、

その逆と二極分化している。が、人口が増えるというのは、我々まちづくりの地域リーダーとしてはうれしいことであり、町がよくなったという、バロメーターでしょう。

それと気になるのは、たとえば神輿を担ぐのにも、十人必要ならば、十人いなければ神輿すらかけない。これが全てのことと言えるのではないですか。小さいという弱点が、人が少ないという弱点が……。

青年団が活発な時代は、ひとつの目標が定めやすかったし、これをやろうといえ、八割の人が賛成してこれに邁進できた時代でした。今はバリエーションが豊富ですから、みんな好きな方向へ行ってますよね。

鶴岡 「若者定住」が重要なテーマでしょうけど、やはり若者を地域ぐるみで育ててやろうという気持ち、意識が一番なんじゃないですか。

松 今、話していた人口の問題でも、人口が増える町がいい町であるという捉え方をされてきましたが、これは非常に大事な問題なんです。

今まで、過疎の町の目標というと、二つしかなかったんです。人口を増やすことと、企業を誘致することなんです。果たして人口が増えたかという、逆に減っているんですね。昭和三十年の町村合併時の戦後の復興で安定している頃の人口に戻そうという発想の行政政策ばかりやってきた。

どうも私たちがやってきた過疎対策は間違いないんじゃないかという気がするわけなんです。人口には「定住人口」と「交流人口」があるが、基本的なことを忘れて、「定住人

口」の増加ばかりに目を向け、目標設定をしてきた。

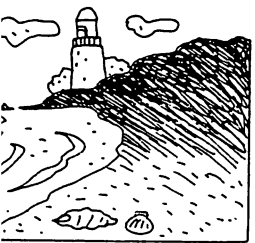
これからは企業誘致といってもなかなか来てはくれない。それでは知的誘致をすればいいし、さらには、今までの作るだけの第一次産業をどのように商業化していくのか、を含めて新しい産業を興していかなければならない。これらのことを考えていく事が、次の新しい出発の糸口になるのではないか。

方 僕は人が減ることは余り心配していないですよ。むしろ町に住んでる人の年齢構成ですね。非常にアンバランスになっているんですよ。

昭和六十年の国調時、残存率六十三・一%だったんですよ。それが今回平成二年の調査では四十九・七%となってしまったんです。結果的に、生産年齢の人たちが減るということとは、要するに出生率の低下にも繋がっているんですよ。

そして、一番大きな問題だと思うのは、教育費にバカでかい金がかかるという事。皆で教育費をタダにしようとかね。地方にいい大学を誘致しようとか。そうなれば、経済的にもゆとりができ、もっと子供を生んでもいいと思う人も多くなってくると思いますよ。

もうひとつは、人口構成の中で五十〜六十代と若者とのジェネレーション・ギャップというか、年寄の常識と若者の常識の違いみたいな。そのギャップをどう埋めていくか、そういうことが町づくり運動の中で中心に議論されていい話なんじゃないかという気がします。



それを考えていくと、役所の存在、役場の置かれている立場を考えさせられます。というのは、以前から役場の仕事ぐらいいあまり変わってない仕事はないんじゃないかという気がするんですよ。

やっぱり住民の中で解決できない事などは極力、役所で調整していくという仕事が必要になってきていいんじゃないかという気がするんですよ。

谷 非常に具体的な問題ですよ。このことを着実に議論したり、整理するとある意味ではポスト町づくりに含まれますね。

地域はジェネレーションのバランスが良いですね。我々が使いたい「地域」というのは、そこに職場があり、そしてそこで仲間と楽しめる場所があるという所なんですね。

力 世の中の流れに逆らってやろうとするとか、それは哲学とか理念を持っていないとやれないです。大半の人は流れに沿っていかざるをえない。大山の人口構成は、第一次が三十八%。今の日本の流れは産業で言えば、第三次産業でしょう。一次主流ではやっていけないんじゃないか。

たとえば、大山の町づくり戦略の「快適な生活を送る戦略」と「農村らしい町を作ろう」ということはかなり矛盾してくる。美しい風景を残して所得を上げるといふ話などは……。今盛んに問題になっているリゾートは町としてはやりたいんだけど、美しい風景をダメにしてしまう。これをどのようにドッキングさせていくか……。

若者が生き生き暮らせは

若松 昨日の話でも、「誰が悪い、彼がバカや」とは言いながらも「自分が悪い」とは誰も言わない。誰が結局、当事者なのかは整理できていない。役場が住民の水かけ論になってしまいが。突き進めば何とか世の中の潮流に乗れていけるよという、ソーダー型の町づくりが多くなってきた。もっと自治体職員と住民が共同の作業によって、海図、羅針盤いわゆる計画書を作っていくような作業が意味を持つ時代が来たいと思います。

ところが、相変わらず計画書は一部の人が作って印刷して、読まずにツン・読ただけなんです。こんなところに、自治体の方向性が見えてこない一面があるようだ。朝起きがけに感じることとはよく当たるんです。(笑い)

守谷 都会の社会のスピードをここまで持ってきてよいのか?この地域が受け入れてよいのか?農村らしいものにこだわっていけば、第三次産業は受け入れられにくいんじゃないか?しかし、それを模索する議論が今必要ではないかと提案があったんですが……。たとえば、梅干し一個を壱万円で売っている料亭がある。これがまさに付加価値を付けた第三次産業だと思うんですよ。だから一個壱万円のみかんを作る方法が現在模索されているんだと思います。

岡 若者を増やすためには、若者を呼び寄せたり、都会に住んでいる者を帰したらいいという発想よりは、今いる若者がそれぞれ楽しく生き生きと暮らしていれば、それでいいんじゃないですか。活性化策にしてもあまり先々を見るんじゃなくて、できることからやっていく。

若者が生き生きとしていたら「帰ってくるな」と言っても、帰ってくるでしょう。

守谷 住んでいる人が町から早く出るように仕向けたところもありますよ、自分の町に誇りが持たなくて。母親が「いい大学行って一流の会社へ行きなさい」とかこんな価値観の思考をしていたから、当然、親がそんな教育していたからみんな出たんでしょう。

若松 「若者が若者らしく生きる」ということはどういうことなのか、これは若者も考えなくてはいけないし、若者がかかえている地域も考えてははいけない。ただ、若者に求める気持ちはあっても、表現する機会も少ないし、表現する能力もまだまだ低い。逆に役場も若者が欲している事を予測はできても、若者とすれちがいのになっている。僕らが「芸術会館の上の階を開放したらどうか」と提案しても、果たして若者の心を掴んでいるのだろうか。

緒方 今みたいな高度な基礎教育はやる必要がなく、それよりも本人の能力を最大限に生かしてやる一元制の教育があつていいと思う。我々の世代の連中から比べると、若者はほとんど埋没している。みんな金太郎飴みたいに。

だからチャレンジする心を今の教育現場が壊しているんですよ。

やっぱり市町村は国や県の従属機関ではないという意識を十分持つべきでしょう。そしてうちの町の子供を育てるためにどうしたら

いいかみたいな別のカリキュラムを作ってもいいのではないかと。

もっと地域を見つめ、地域の人が何をしようとしているのか、そういう切実なものを計画にまとめて、国や県にこういうことをやっていくよという事が大事なんじゃないかな。

今後のリーダーの条件は

若松 全国の地域づくりで、リーダー的に頑張っている人はおおよそ戦後の歴史・飢餓体験もしている。しかも偏差値のない時代だから、こうやってうまく浮かび上がったこともあるんだらうけど。今の時代に生まれていたら、自分の働く場所もなかったかもしれない。(笑い)

ですから地域づくりの場合、人が大事というけれど、今後感性のあるリーダーが育つかという疑問ですね?

緒方 多価値化社会といいますが、いろんな価値観がありすぎて、難しいでしょうね。そうなると、リーダーは、プロデューサーとかディレクターとか、いろんな意見を集約するのにだけた人になるんじゃないかな。俺についてこいタイプのリーダーでは、皆さん、遠ざかってしまっているんじゃないですか。

岡 ある首長選がそうだったですね。前首長は「トップダウン」で俺についてこいタイプ、新首長は「ボトムアップ」で底辺からの意見を聴き上げていくタイプ。

人づくりでも町づくりにしても上から押さえ付けたんでは、「らしさ」がでないですよ。その人の人間らしさ、その町の町らしさがで

ないです。

松 そういう意味では、これから上浦町に若者来どういう人材を育てていくか、目標を持たなければならぬと思います。このような若者塾もあちこちでやられています、若者塾開設の目的の一つは「人づくり」である。

昔と今ではリーダーの条件は、随分変わってきたけど、変わらないのは「感動する心」だろう。感動する心を持っているかどうか、リーダーの第一の条件でしょう。すると、感動するということは、感動する場所、機会、人に出会わなければならない。

だから新しい上浦町の明日を背負う人を作ろうと思えば、そういうキーマンに出会い、

延長を見ているようだ。

町づくりはいろんなキャラクターの人がくつき合っていくのがおもしろい。

守谷 若松さんが先程、問題提起した「リーダーの作り方を変えろ」と言うことをもう少し突っ込めば、「交流をどんどんしろ」ですか。

松 そうですね。旅をさせることです。若者旅行はやめよ。旅は、そこその方言で語られたり、生き方が見えてくるような旅をさせないといけない。最近感動の涙を余り流さなくなりましたね。もちろん生まれてから、死・生の場面に会おうのだが……少なくなってきた。感動の涙を流せるような場面を作ってやる必要があるのではないか。

う話になったんです。すると、上浦町は冒険心というか、失敗を恐れない挑戦性を持った若者をどれだけ育てていくかということが、非常に大事になるでしょう。

大山町もその冒険心を持つように育てていくとしたのが、海外派遣だった訳です。

守谷 先程の話でやっぱり我々は「世間体」との戦いかなと思った。どこへ行ってもこれと戦い、勝利した人が自ら立っている人ではないか。一人立ちすると、仲間も増え、連帯も持てるし、困難を切り開くパワーが備わったと思える人物になるみたいですね。

この後塾生を交えての懇談会では、意義深い話が続出し、大変な盛り上がりを見せまし



緒方 英雄さん
(大分県・大山町役場)



鶴岡 靖秀さん
(上浦町若者塾・塾長)



若松 進一さん
(双海町役場)



守谷 和久さん
(川之江市・都市計画研究所)

自分の心のしがらみを解いてやれるチャンスを与えてやるのも一策でしょう。

緒方 この町は非常に真面目すぎるぐらい真面目だ。「まじめ」は高度成長期の遺物みたいな物です。ある意味の「不真面目」が必要と思う。役場の職員も住民を見ても、何かキチンとやっているみたいない工業化社会の

緒方 昨日の話の中で、若い人たちに「今、町にどういうことを期待したい」、という質問をしたら、「言いたいことが言える町にしてほしい」という話がでましたね。

その一方で「世間体があつてむづかしい」という話もでたんですよ。そこで自分たちから、主体的にチャレンジしなければならないとい

た。

なお、編集の都合により若干の割愛をしております事をお詫び申し上げます。

最後になりましたけれど、ご出席の皆さんほんとうにありがとうございました。

(文責・宇都宮)

何か純粹なもの……

松山市 岡崎 郁佳

みなさんはどんなことに感動しますか？何を愛しいと思いますか？私は「純粹なもの」が人の心を動かし、生きていく原動力になると思っています。

現在、愛媛ではいくつかのアマチュア劇団が頑張っており、雨後の荀のように次々と新しい劇団も生まれています。そして、みんな自分たちの想いを精一杯伝えようとしています。

私は中学時代から二十七歳の今まで、演劇に関わらなかった年が一つのものを作りあげる喜び」が、その魅力だとよく言われ、その通りだとも思うのですが、私は、「自分の感動を人に伝えたい」「自分が純粹だと思ふことを他の誰かにも認めてもらいたい」という気持ちで芝居を続けています。また、台本を読みこむことで、どんな短い言葉にも必ず意味があることを

知りました。それによって、自分とは違った考え方や、或いは生き方の人を素直に認めることができるようになり、人に接することが楽しくなってきたのです。

今は、戒田節子さんの、子供のようにならに輝く瞳に魅かれて、ミュージカル劇団「みかん一座」の一員です。戒田さんの世界を大切にしたいので、自分が書いた台本は、他の劇団で上演します。そして、この原稿を書きながら、ミュージカル劇団S・A・D（森田康二主宰）の「万葉版・真夏の夜の夢」（十月末公演）の衣装作りにも助んでいます。

このミュージカルは、おなじみシェークスピアの「真夏の夜の夢」の舞台を、天智天皇がまだ中大兄皇子と呼ばれていた日本の万葉時代に移してみました。中大兄皇子、額田王女、鸕良（のちの持統天皇）、大海人皇子（のちの天武天皇）、大

友皇子、十市、中臣鎌足、畝火山、天香山、そして天邪鬼他、いろいろな妖精たちがそれぞれの役割を生き生きと果たします。登場人物の一人ひとりが、自分の想いに正直に懸命に生きています。

十月には、きっと、素朴でおおらかで素直で、そして激しい万葉の人々が舞台に再現されることでしょう。この時代に興味のある方は是非お誘い合わせの上、会場へ足をお運び下さいませ。そして、このミュージカルを通して、私たちの純粹な何かを感じとっていただければ幸いです。

これからもやりたいことがたくさんありますが、愛媛県内に伝わるたくさんさんの伝説や民話を舞台に

魅えらせていくような企画をたてて、実行していきたいと思っています。ひとりでも多くの人が、芝居を、愛媛をもっと好きになってくれることを願いつつ……。

今回は、愛媛のいなかが好きになる雑誌「愛里」編集長・二宮美日さん（広見町）です。

※追伸 玄人の芝居が観たい方にはツールド・モダンシアターをお勧めします。東京発の旬の芝居が年に二回も観られますよ。世話人は、「S・H・O・T」というグループで、連絡先は次の通り。
TEL〇八九九―二四―六六七〇
山本さんまで



岡崎郁佳・作・演出
劇団青果市場「今宵あなたに会いたくて」より

本町商店街「土曜夜市」本日閉店

伊予三島市 加地 昭宣

ヴァドワイザーのステッカーを張った、秋に三人目の子供が生まれる実行委員長ヒデー坊の夜市の道具を乗せた軽四トラックが、商店街を行き来したら、暑い夏の土曜日の地獄の始まり。

「只今四時」それを見て通るお客さんが、「ああ、今日土曜夜市やな」。うれしいのは学生さんの、「今日は輪投げでええ景品とろや」の声。それとほぼ同時にテナントの金魚すくいのおっさんが、ビニール袋に入った金魚といろいろな道具を運んでくる。

副理事長で乾物屋のユキオちゃん、自分で作るアイスクリームの道具を並べる。そして、同じ副理事長で呉服屋のケイスケが、聡一郎・ヨシエちゃんの二人の子供を従えて、五年前自分で作った、パットパットゴルフの用意を仕始める。



商店街の真ん中では、今年二月結婚式場の違いはあるが、同じ日に結婚式を挙げ、しかも秋出産という同じ太めの腹をした、洋品

店のジロー君の奥さんと、「ときめきフライデー」というテレビ愛媛の番組で司会をした事のある、和菓子屋のマーマ姉ちゃん、が、夜の準備にかかる。落ちつきのある時計屋のキヨシ君と家具屋のカオル君、祭り好きの洋品店のシゲル君は、どう書いてい

いのか、まあそれなりの行動。

本町カラオケNo.1の子供服店のサカちゃんが歩いている子供をつかまえて、土曜夜市、今日が最終日という余裕からなのか、「お前ら、どんどんええ景品を持って帰れよ」と意味ありげにニコニコしながら話せば、横で「輪投げで、こんなにええ景品出して大丈夫か」とうれしそうに言う商店街会計のメガネ屋の三好さん……。

顔には出さないが、雨降らないよう、他の商店街よりたくさんのお客様が来るように、そのお客さんに各店が買っていただけるように、との願いが一杯です。

地獄の四時から、五時間後、心身共に疲れはしたが、最近商店街の仲間入りした、炬燵焼「潮風」で生ビールを飲みながら、来年はいろいろな催しに、こう工夫しよう、と、楽しく、いきいき話しながら、土曜夜市本日閉店しました。

次回は、新居浜アドベンチャークラブで活躍されている大久保佳子さんです。



元気印 いたし

花と生きる

一本松町
門田 茂



今していること

十四年間勤めた山口県下関市の生花店から家庭の事情もあり、昭和六十三年四月に帰郷し、今までの経験を活かせる花キ專業経営に取り組んでおります。

今は、主としてスイトピーを五百平方メートルのビニールハウスで栽培。今年は、三万本を出荷。

スイトピーを選んだ理由は、愛媛県の最南端で高知県境に位置し、冬季温暖で日照量が多い気象条件を有しているので、冬の施設栽培には最適であること、そして、生花販売に携わった関係で、花の消費動向がある程度つかめていて今後へ期待ができたこと、以上の理由からスイトピーを選んだのである。

そのほかに、町の「花一杯運動」に使う為のマリーゴールド、サルビア、パンジー、キンセンカなどの苗を年間三万本くらい作っている。

花を植えながら、少しでも地域が美しくなればと願いながらも、

花屋としての役割も担っており、花の需要も伸ばしていきたい。

私としては、仕事も目一杯しながら、余暇も有効に活かし、家庭、友人、地域を大事にしているつもりである。

そういうふうには、生き甲斐として仕事と趣味（魚釣り）の両面を考えているが、とにかく、のんびりムードで楽しんでいるのが現状である。

今後の願い

地域を美しくすることは、心のゆとりにつながる。今まで都会にいて時間に追われる生活をしてきた。時間の内容（質）は違うだろうが田舎でも同じである。自己中心的な人が多いといわれ、心の貧しさが叫ばれている。

道端にひっそりと咲いている草花にも心配りのできるようなやさしさが、今、求められている。そして、そのやさしさが人と人のつ

ながりにおいても、同じように必要とされている。

個人的には、現在、花作りだけで生計をたてているので、スイトピーに関しては気候に左右されない商品づくりを目指したい。そして、美しい町へ……。

国際化を迎えての農業

農業を考える時、輸送面のコストと時間について都会と比べれば、田舎は不利ではあるが、努力すれば隔りは余り感じない。

しかし、日本の技術からして世界のトップクラスに通用する技術があると思う。国際化を迎えて、繁沢な国・人々に対して商品供給しているのだから恐くないという実感があるが、将来は状況も変わってくるだろう。

望まれる町の姿

今の日本は汚い仕事は外国人労働者に頼っている。若者の中には、フリーアルバイターという職業が流行っている。体を動かさず、きれいな仕事でお金を稼ぎたい…。このような状態が続いている日本の将来が不安である。今の好景気もいつまでもは続かないだろう。本当の必要性に迫られないとまぢづくりも始まらない。しかし、その時には取り返しがつかないだろう。だから、自分の出来ることとして、花を通してまちに対して貢献していきたい。

上を見ずに最低の生活からスタートすれば、たとえどんな時代になろうとも生きて行けるし食べて行ける。その観点では、第一次産業を誇りに思っている。

今後の第一次産業は、頭を使えば充分やっていける。後継者に悩む必要はないのでは…。

そして私は、ここで生活をしていて良かったという実感を味わいたい。

外から来る人々が、心安らぐ美しい環境を作りたい。歴史的な魅力がなくても、そこに住む人々が町の魅力につながる。

すなわち、時間を上手に使い、ゆとりをもてる人間性を作ることが基本である。

今は内面的な魅力・個性を外に對してアピールしていける時代。自分がどれだけ魅力的になれるかが問われる時代。

自分が生まれたふるさとが光輝くよう、一步一步進んでいきたいと思っている。いずれは、美しい町で楽しく生活することを夢に見ながら。そして、そんな美しい町に町外からの人がどんどん集まってくればと、そんな風に想いを巡らせている。



門田さん





大洲市
上甲 弘司

我ら、アドベンチャー飛行隊！

「ハンググライダー大洲ハゲタカクラブ」は、松山から南西約五十km、車で一時間あまりの大洲市新谷町にある。新谷の霊峰神南山（標高六百五十四m）をホームエリアに活動しており、メンバーは十五名ほど。二十才から五十才までの男性ばかりで、今年で結成十年目を迎えました。

ランディング地点までの高度差は三百二十m。このエリアでは、肱川河口の長浜より北西の風が肱川上流に向かって吹き込み、神南山の斜面に当り上昇風となっている。日本では、このような良い条件に恵まれているエリアは数少なく、冬と春には毎年横浜国大の学生達が合宿に訪れるなど、ハング愛好者達のメッカとなっています。標高三百二十m北西向きのテイクオフ台よりグライダーをかつぎ二〜三步走って離陸。すると、上昇気流に乗り、リッチソアリングやサーマルソアリングを楽しみながら、高度千m〜二千mへと上昇して行きます。視界はどんどん広がり、遠くは佐田岬半島から宇和

島・松山、そして瀬戸内海の島々、九州まで見えるようになります。気分はもう最高潮。大洲市街地の上空から五十崎町、内子町などの上空へ飛んで行ったり、時にはクロスカントリーに出かけ、野村町、大野ヶ原高原や松山方面にも飛んで行く時があります。一回の飛行で、一時間〜五時間も楽しむことが出来、ストレス解消にはもってこい。もう気分爽快。

又、ハング大会に向けての練習を兼ねて楽しみますが、大会へ出場して競技を競い合うのも、練習の成果やレベルがわかり、おもしろいものです。



競技種目

☆ パイロン競技

ある物体を設定して、それを上空よりカメラで撮影し、決められたランディング場へ降ります。

☆ ターゲット競技

決められた円の中心に向かって正確に、しかもセーフティにランディングすることを競います。

☆ クロスカントリー競技

もっとも過酷でハードな競技です。決められた方向もしくは無方向へ、より遠くへ飛んで行かなければなりません。遠くへ飛ぶためには、その日の気象条件や風の方角、そして、技術と判断力が必要になります。

この競技は大会で多く行われ、飛んで一番満足感を味わうことができ、日本のハングフライヤーはこれを必ず一度はやり、日本選手権や世界選手権へ向かって練習をします。



ティオの瞬間!



私の目標は日本選手権で優勝すること、世界選手権に出場することですが、まずは上昇気流（サーマル）が見えるようになるまでは、飛び続けるつもりです。

ハンググライダーは、パラグライダーと同様にライセンスという

ものがありません。法の下では、ハングもパラも空中のゴミと何ら変わらない「空の浮遊物」扱いになるので、航空機のように厳しい法規制はありません。そこで、日本航空協会（JAA）内にある全国十一の地区連盟から組織されている日本ハンググライディング連盟（JHF）では、それぞれフライヤーを対象に競技会やセミナー、技能証検定会などを開催したり、安全飛行の研修会などを活発に行っています。

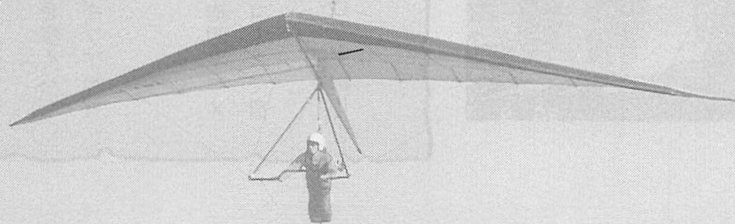
ハングやパラには免許がない代わりに、この技能証を発行し、これに応じたフライトエリアやティクオフ地点を利用します。

ハングの技能証は、以下の四段階に分かれています。

- I 練習生A級／正しい離着陸と安定した直線滑空ができる。
- II 練習生B級／約九〇度のターンをしてS字飛行ができる。ここまででは風がよければ一日ぐらいで習得可。
- III 練習生C級／約一八〇度のターンを入れた飛行と指定地着陸（半径二五m）の円の中に降りる。
- IV パイロット証／左右の連続三六〇度ターンと指定地着陸（半径一五m）の円の中に降り、さらにフライトに関するペーパーテストに合格すること。人によって差があるが、熱心に練習を積んでいけば、二〜三年でパイロットも可能。

私も、現在、インストラクターとして指導にあたっていますが、

メンバー一同、お問い合わせをお待ちしています。



大洲の空を飛ぶ

● BIG BIRD: FAL-HAWK 社公認 test pilot
● その他各社機材も取り扱い
● ハチタカハンググライダースクール開講

日本航空協会 公認指導員

上 甲 弘 司

〒795 愛媛県大洲市新会2-1475
TEL 0893 (25) 3139



わらじで歩こう 坂本龍馬脱藩の道

河辺村 梅木 良照

- と き 九月八日(日)午前九時〜
- ところ ふるさとの宿集合
- 参加費 二、〇〇〇円
- 参加資格 中学生以上、小学生以下は保護者同伴のみ可
- コース Aコース(ザバイバルコース)
榎ヶ峠から泉ヶ峠まで約十五キロメートルを歩くハー
ドコースですが、落伍者は、途中三ヶ所あるギブアップ
ポイントからバスで戻ることができます。
- Bコース(ゆうゆうコース)
榎ヶ峠から御幸の橋(県指定文化財)まで約四キロメ
ートルを歩く。子供や高齢者向きのゆうゆうコースで自
然が十分満喫できます。
- 支給品 参加者には、通行手形、竹の水筒、弁当、わらじを支給し
ます。

河辺村は、県都松山市から六十
八キロメートルにある人口二千人
足らずの村です。

国民的英雄、坂本龍馬の脱藩の
道説明は、河辺村の村づくりに最
高の賜り物となりました。

この坂本龍馬脱藩の道を利用し
たイベント「わらじで歩こう坂本
龍馬脱藩の道」を紹介します。是
非お越し下さいませ。



坂本龍馬が脱藩した当時のまま
の自然は、仕事の疲れをいやし、
ストレスを解消してくれる最高の
森林浴。途中には、坂本龍馬の偉
業を偲んで建立した「夜明の道」、
県指定文化財御幸の橋・三杯谷の
滝・龍馬宿泊の地など見所が沢山
あります。また途中の休憩所では、
河辺村ならではの「アメノウオ塩
焼」実演販売などでイベントを盛
りあげます。

本年は、イベントの前日、土居晴
夫先生(龍馬のおいの孫で八代学
院大学講師)、村上恒夫先生(「坂
本龍馬脱藩の道を探る」の著者)
を囲んで、全国の龍馬ファンが集
う前夜祭「龍馬を語る夕べ」も開
催します。

昨年は、途中にトイレがなく苦
労された女性の方もありましたが、
今年はトイレも整備しましたので
安心して参加して下さい。

〓お問い合わせ〓

河辺村役場地域振興課

(〇八九三)三九一二一一

海の流れる町

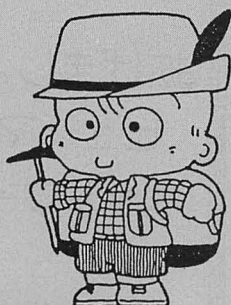
愛媛県三崎町、みかんの穫れる美しい町である。「愛媛県まちづくりセンター」の仕事で昨年三回、そして今年の春訪れる機会に恵れた。

三崎の灯台へ車を走らせる…。

海と波がくだける岩壁の美しさに魅せられ、そして、君の船に乗り込む。船は「いろは丸」。船主の彼の思いがこもっている。やがて目の前に海面が一メートルも盛りあがった現象が起きた。ものすごい勢いで流れて来る。「海の流れる町」私はあの流れを忘れることは無い。

島根県 鉄の歴史村

藤原 洋



もう一度行つてみたい町

北海道美瑛町

私の数少ない旅の中で、訪ねた町の“人”に強くひかれることはあっても、町そのものに魅力を感じたということはない。北海道美瑛町へ行くまでは、そう思っていた。

見渡す限りの耕作されたゆるやかな丘陵。美瑛の農家の人たちは、芸術家なのじゃないかと思うほど美しい。まるで外国にいるような気持ちになる。自然が作り出した景色に感動することは、多くあるが、農の営みが生み出した人工的なものが、これほど美しいものなのかと、丘のまん中に立つてことばにならない。写真家の人たちが年間六十万人来ると聞く。おそらく何度も来るのだろう。私だってそんな気になる。

案内してくださったのは、美瑛農協の今野さん。十一年前に花いっぱい運動を始めた時の先生である。酪農学園の松本先生のおかげで、十一年目にして美瑛町へ行くことができた。そしてそこで、子どもの頃からあこがれていた風景とそれを作り出した“人”に出会った。

徳島県阿波町

井原 まゆみ

尾瀬

唄の文句ではないが、夏が来れば想い出す場所が、「尾瀬沼」である。昭和47年頃、横浜にいて、山歩きの好きな友人達と毎年行っていた。当時シーズンには、銀座からバスが出ていたと思う。尾瀬は、自然の香りがいっぱい、水芭蕉と日光キスゲの花が美しかった。尾瀬ヶ原には、丸太を半分にした歩道があり、ハイカー達が通り過ぎる時には必ず『こんにちわ』と挨拶があった。遠くになった尾瀬、又行って見たい。

城川町 西岡 健治

太鼓のふる里金沢

北陸の小京都と呼ばれている金沢は、有名な「兼六園」をはじめとする加賀百万石の城下町に名所、旧跡がいたる所に存在し、古風な町並みには、歴史を感じる多くの伝統工芸品があり、中でも太鼓のふる里、浅野太鼓の制作現場を見学し、太鼓の魂を感じました。

歴史の町、金沢の郷土芸能と景観をいつまでも守っていただきたいものです。

上浦町 赤宗 吐夢

学ぶべき町・湯布院

湯布院という町は、何時の時代も情報を発信するところである。そして付き合えば付き合うほど新たな感動を与えてくれる。

七月三日夜八時。「西風」のメンバー集合。

十数名の若き会員。美女の顔が会議の場を和ませている。一人ひとりが担った町に関わる課題の近況報告と活動事例が発表される。それぞれに、質疑と意見の交換。担当者は神妙に耳を傾け聞く。それぞれがまちづくりの担い手の顔である。

湯布院が発信する情報源の舞台裏を見た思いであり、人は、夜つくられることを改めて知った。

内子町 岡田 文淑

「群馬音楽センター」高崎市

アントニン・レーモンドの設計によって一九六一年完成した真の建築。市民の情熱的な活動とそれに応えた建築家の英知によって今もなお新鮮に奏でる豊かな空間のシンフォニー。

創造性を刺激する公共建築、市民の誇り、場所の記憶（原風景）・・・建築で（まち）が輝くこの場所に忘れかけようとした地霊（ゲニウス・ロキ）をみつけた。もう一度思い出そう「日本の大工の伝統的技術は私に素晴らしいインスピレーションを与えてくれた」と語った建築家の言葉を……。

新居浜市 白石 高啓

（群馬音楽センター）



文化の里“宇和町”

チリリン。各駅停車の旅がしたいなと思わせる駅が、東宇和郡宇和町にある「R卯之町駅」。町木の「杉の木」をふんだんに使ったこの駅で、へちま棚が私たちを迎えてくれました。3m×1.5mの3つのへちま棚には、南部鉄や陶器の風鈴、地元の方の詠んだ川柳や俳句の短冊が風に舞い、目にも耳にも、大変涼やか。

ここから続く山や古い街並み、今度また、ゆっくり歩いてみたい、そんな気もちをおこさせる高原の駅でした。

松山市 高坂 千賀子
(南海放送)

ああ！アイダホ

思えば、10年前アイダホに向かい、ジェットから町が見えた時、思わず涙が出た。どうしようもなくうれしかったのだ……。小さな飛行場を出ると6人の子供達。（すでに20才を

過ぎていた長女）家族皆の笑顔がそこにあった。そしてその後泣きながら長男が近づいて来たとき、本当にうれしかった。（再訪の地）涙と笑顔の見られ、そんな旅、人生を送れた事は本当に幸せだったかもしれない。

人との出会いも同じように10年20年の後、涙と笑顔が見られるような生き方をしたいものだ。

重信町 牧 秀宣

再 の



働まちづくり総合センターでは、研修会・まちづくりの資料としてご活用いただくため、次のとおり、ビデオを備え付けています。ご利用を希望される方は、無料で貸出し致しますので、お気軽にお申し込み下さい。

その他、市町村紹介ビデオもあります。

No.	タ イ ト ル	制 作	時 間
①	応援します ふるさとづくり	地域総合整備財団	18分
②	地域おこしのためのイベントづくり 上巻・下巻	第 一 法 規	各 45分
③	教育と交流の村 (岩手県田野畑村)	地域活性化センター	30分
④	氷点下からのチャレンジ (山形県朝日村)	"	30分
⑤	まちづくり情報化	"	30分
⑥	特産品開発へのアプローチ	"	30分
⑦	我がまち 我が塾 人おこし	"	30分
⑧	自ら考え自ら行う地域づくり (鳥取県境港市他4市町村)	日 本 公 報 協 会	30分
⑨	サヨナラ後楽園スノーフェスティバル (新潟県安塚町)	同 左	60分
⑩	我が愛する緑の町 3巻 (大分県大山町)	"	各 45分
⑪	利賀そば祭り 2巻 (富山県利賀村)	"	10・30分
⑫	丹後網野にギャグが降る (京都府網野町)	"	150分
⑬	アジアに伸ばせ農援隊ネットワーク (鹿児島)	テ レ ビ 録 画	15分
⑭	一村一品運動の10年	"	45分
⑮	トイレを考える 西岡 秀雄	"	15分
⑯	私の青春ノート 溝口 薫平 (大分県)	"	30分
⑰	朝までトーク みんなで語ろうふるさとおこし	"	5時間半
⑱	愛媛のふるさとづくり～よみがえれわが町わが村	"	45分
⑲	リゾート開発にのみ込まれた島 (岡山県鴻島)	"	30分
⑳	津和野街道歩こう会 (広域市町村参加)	"	30分

夕立が、すき通った空気を運んで、空の青と入道雲の白を、くっきりと浮かび上がらせてます。

まだまだ暑い日が続きますが、夏バテしたりしていませんか？
これからの残暑、気合いを入れてのりきりしましょう。

内容についてのご意見や活動内容についての記事など、お気軽にお寄せください。

「舞・たうん」編集係

二人のM.S. (毛利・安田) まで
〒七九〇 松山市道後一万一の二
働愛媛県まちづくり
総合センター

TEL

〇八九九(二五)五五五七

FAX

〇八九九(二五)六六八〇

発行・平成三年八月十五日

働愛媛県まちづくり

総合センター

えひめ地域づくり研究会議